

平成 30 年度

(2018 年度)

ダイバーシティ研究センター
報告書

平成 31 年 4 月

ダイバーシティ研究センター

内容

1. ダイバーシティ研究センター	3
a. はじめに	3
b. 事業内容	4
c. センター組織図	5
d. ダイバーシティ研究センター沿革	5
e. 運営委員会	6
f. 平成 30 年度構成員	7
2. 平成 30 年度活動報告	7
a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施	7
b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育	8
c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進	8
3. 平成 30 年度研究業績一覧	11

1. ダイバーシティ研究センター

a. はじめに

日本社会は、性別、国籍、民族、年齢などの属性や背景にかかわらず、誰もがその能力を最大限に発揮し、活躍できる社会を目指している。同時に、各分野で国際的な競争力を高めるために、これまで以上の新たな着想や変革が求められている。これらの課題に応えるには、多数派のライフスタイルや価値観を標準とした従来の制度や組織運営を改め、多様な価値観や文化背景をもつ人々が、それぞれにその個性と能力を活かし、革新的発想を生み出せるような仕組みづくりが必要である。

わが国の多くの企業等では、ダイバーシティを、「ワークライフバランスや障がい者雇用のように、マイノリティとされる人たちも雇用し、働ける制度をつくること」と解釈するに留まっており、福利厚生や企業の社会的責任と見なす場合が（現状では）多い。実際、多様な働き方を可能にするための制度づくりすら十分ではないのが日本の現状であるため、この視点も重要ではあるが、本来目指すべき状態とは、属性だけでなく価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることである。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion** (以下、ダイバーシティ・インクルージョン) という。しかし、このようなダイバーシティ・インクルージョンの実現については、世界的に見ても、学術的に探究されるべき課題が多く残っている。そもそも属性の多様性は、生産性ではなく葛藤や対立を促進し、メンバーのモチベーションを低下させる可能性も大きい。「生産性や革新」と「葛藤や対立」を分ける要因やそれを生産的な方向に向けるための介入方法など、学術的に解明すべき点は多い。しかし、特に日本では、ジェンダーや移民問題など、個別のマイノリティ集団に関する研究者は多いものの、「一つの組織や集団内で多様な属性を持つ人々がどのように革新的な業績を生み出し得るか」を実証的に研究する研究者は相対的に少なく、決して研究の盛んな領域とは言えない。また、ダイバーシティ・インクルージョン研究は主に経営学の領域において「企業従業員のダイバーシティ」に限定した研究が行われており、大学や学術界におけるダイバーシティに注目した研究は見当たらない。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、及び特別支援教育の分野で、日本の中でも先進的な業績を挙げてきた。この業績を基盤として広島大学が進むべき次のステップは、ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することである。しかし、この課題は学内に現存する組織（男女共同参画推進室やアクセシビリティセンターなど）が扱える範囲を超えており、新たな学際的研究組織が必要である。このような経緯から、平成 28 年 4 月ダイバーシティ研究センターが設立された。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、特別支援教育の分野で、日本でも先進的な業績を挙げている。この業績を基盤として、広島大学が進むべき次のステップは、

- ① ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること（多様な価値観や文化背景、個性をもった人々がともに生きる社会で、一人一人の個性を活かし、その能力を発揮できるような組織・チームを管理運営するスキルやリーダーシップに関する研究を行う）
- ② そうしたスキルやリーダーシップ能力をもった人材を育成することである。

このステップのために、新たな学際的研究組織として、ダイバーシティ研究センターが設立された。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン

ダイバーシティ・アンド・インクルージョンとは日本では、ワークライフバランスや障がい者雇用のように、「マイノリティとされる人たちも雇用し働ける制度をつくること」を目指した動きが始まったばかりである。しかし本来は、単に「多様な人々が働ける環境を整える」ことに留まらず、価値観や知識など深層の多様性にも着目した上で、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることを目指す必要がある。この理念と戦略を Diversity and Inclusion（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）と言う。

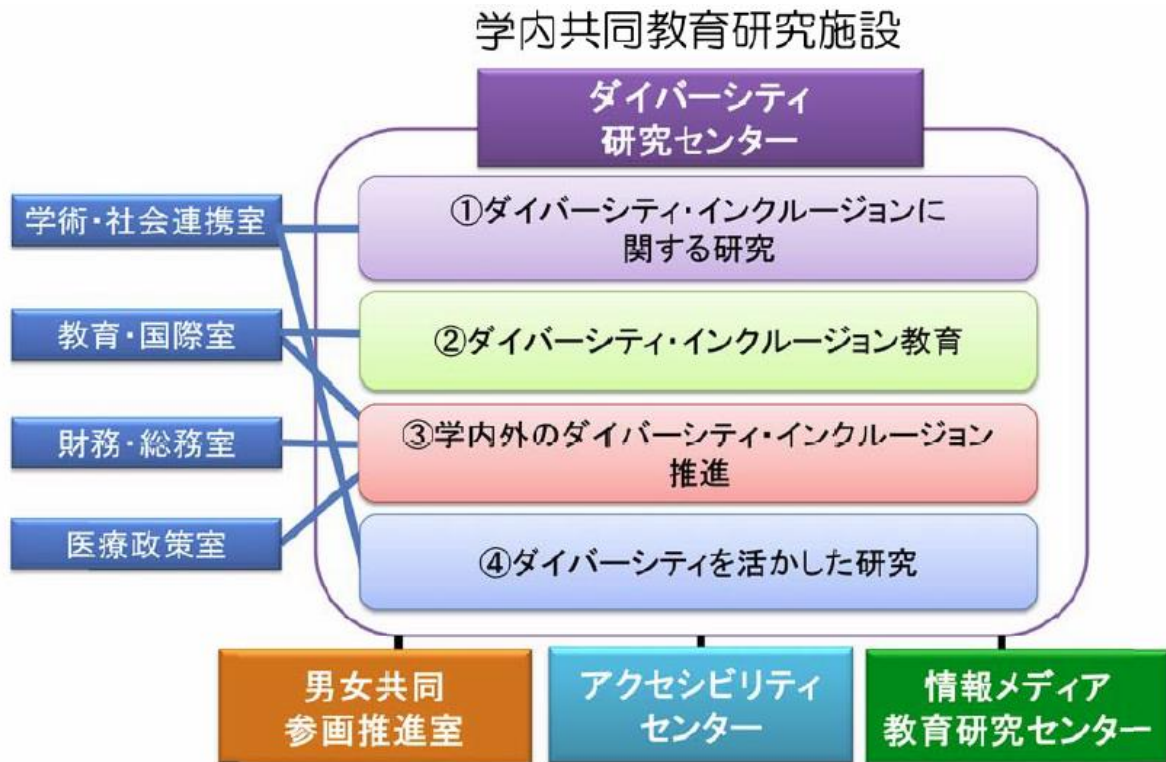
b. 事業内容

以下の内容を通じて、広島大学がダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結びつけられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することを目的とする。

<取り組み事業の概要>

1. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンに関する学際的研究を行う
2. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンのための知識とスキルを学生に教育する
3. 公開講座や企業向け研修など学内外におけるダイバーシティ・アンド・インクルージョンの推進と問題解決に貢献する
4. ダイバーシティを活かして創造的な研究を生み出す実践の場を提供する

c. センター組織図



d. ダイバーシティ研究センター沿革

- 平成 28 年 4 月 ダイバーシティ研究センター開設（センター長 坂田桐子教授）
- 平成 29 年 1 月 北梶陽子助教が着任
- 平成 29 年 5 月 大池真知子教授が着任
- 平成 29 年 7 月 関西大学酒井千絵准教授、高知大学佐藤洋子助教が連携研究者として加入
- 平成 29 年 9 月 高知工科大学上條良夫教授が連携研究者として加入
- 平成 30 年 4 月 大池真知子教授がセンター長に就任
- 平成 30 年 10 月 相馬 敏彦准教授、中島 健一郎准教授が協力教員として加入
- 平成 30 年 12 月 広島修道大学河口和也教授、大阪市立大学安達菜穂子研究員が連携研究者として加入

e. 運営委員会

所 属	職 名	氏 名
ダイバーシティ研究センター長	教授	大池 真知子
大学院総合科学研究科	教授	坂田 桐子
大学院文学研究科	教授	有元 伸子
大学院教育学研究科	教授	森永 康子
大学院社会科学研究科	准教授	折登 由希子
大学院理学研究科	准教授	DAS KAUSHIK
大学院先端物質科学研究科	教授	鈴木 孝至
大学院医歯薬保健学研究科	教授	藤井 万紀子
大学院工学研究科	准教授	駒口 健治
大学院生物圏科学研究科	准教授	加藤 亜記
大学院国際協力研究科	教授	片柳 真理
大学院法務研究科	教授	新井 誠
原爆放射線医科学研究所	准教授	仲 一仁
情報メディア教育研究センター (情報メディア教育研究センター長)	教授	西村 浩二
教育学研究科 (アクセシビリティセンター長)	教授	服巻 豊

f. 平成 30 年度構成員

センター長 大池真知子（教授：アフリカ文学）

専任教員 北梶陽子（助教：社会心理学）

協力教員 坂田桐子（大学院総合科学研究科 教授：社会心理学）

森永康子（大学院教育学研究科 教授：社会心理学）

相馬敏彦（大学院社会科学研究科 准教授：社会心理学）

中島健一郎（大学院教育学研究科 准教授：社会心理学）

服巻 豊（大学院教育学研究科 教授：臨床心理学）

片柳真理（大学院国際協力研究科 教授：国際関係論）

相原玲二（情報メディア教育研究センター 教授：副学長）

相田美砂子（大学院理学研究科 教授：理事・副学長）

連携研究者 佐藤陽子（高知大学 助教：社会学）

酒井千絵（関西大学 准教授：社会学）

上條良夫（高知工科大学 教授：経済学）

河口和也（広島修道大学 教授：社会学）

安達菜穂子（大阪市立大学 都市文化研究センター研究員：社会心理学）

2. 平成 30 年度活動報告

a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施

(1) 研究実施体制の展開

- 平成 30 年 4 月 1 日に大池真知子教授がセンター長に就任した。元センター長の坂田桐子教授は、協力教員として引き続き協力を実施している。
- 平成 30 年 5 月 22 日に広島大学のインキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」（代表者：坂田桐子教授）が発足し、本センターも参加し、学内外の研究者との連携を進める体制を整えた。
- 平成 30 年 7 月 31 日に山口一男教授（シカゴ大学、社会統計学）と研究会を開催し、今後の協力体制を構築した。
- 平成 30 年 10 月 19 日に相馬敏彦准教授（社会科学研究科、社会心理学）、中島健一郎准教授（教育学研究科、社会心理学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
- 平成 30 年 12 月 19 日に河口和也教授（広島修道大学社会学部教授、社会学）、安達菜穂子研究員（大阪市立大学都市文化研究センター、社会心理学）が連携研究者として参加し、協力体制を構築した。

(2) 企業との共同研究

平成 29 年度採択の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽

引型)」の事業の一環として、組織のダイバーシティ実現を目的とし、共同実施機関やメンバー機関の企業と共同で調査を進めた。

- (3) 県立広島大学とのダイバーシティ推進に関する協力体制の構築
平成 31 年 3 月 18 日に、県立広島大学地域連携センターとダイバーシティ推進に関する取組を進めるための情報交換を行い、協力体制を構築した。
- (4) その他研究活動
「3. 平成 30 年度研究業績一覧」(後述)にあるように、各研究者が独自の研究課題を遂行した。

b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育

- (1) 教養的教育科目「大学教育入門」(全学必修)でセンターが 1 コマ担当
平成 30 年 5 月 16 日ほか、7 回を北梶陽子助教が実施した。
- (2) 教養教育平和科目「ひろしま平和共生リーダー概論」(COC 事業関連)でセンターが 1 コマ担当
平成 30 年 7 月 23 日に大池真知子教授が実施した。
- (3) 特定プログラム「ダイバーシティ推進プログラム」(仮称)開設準備
平成 32 年度開設に向け、授業科目の提供依頼、および、新規科目「ダイバーシティ概論」の準備を進めた。
- (4) 大学院共通科目「ダイバーシティの理解」開設準備
平成 31 年度開設に向け、北梶陽子助教がワーキング・グループに参加し準備を進めた。
- (5) その他のダイバーシティ教育の実施
教養教育科目「ジェンダーと社会」、総合科学部専門科目「ジェンダー学基礎」ならびに「学問とジェンダー」、総合科学研究科専門科目「異文化理解」、専門的教育科目「社会行動論」などの授業を通じて、ダイバーシティについての教育を実施した。

c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進

- (1) 公開講座・セミナーの実施
- 平成 30 年 7 月 30 日 13:00-17:00 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」事業の一環として「第 1 回ダイバーシティ環境推進シンポジウム——女性も男性もともに活躍できる社会を目指して」(東千田未来創生センターにて、広島大学主催)実施に協力し、パネルディスカッションのコーディネーターとして協力教員の坂田桐子教授が登壇した。
 - 平成 30 年 8 月 28 日 15:00-16:30 「男女共同参画意識啓発セミナー：現代日本の学術分野におけるジェンダー課題——男性学・男性性研究の視点をふまえつつ」(東広島キャンパスにて、講師：京都産業大学現代社会学部・京都産業大学ダイバーシティ推進室長伊藤公雄教授、男女共同

参画推進室主催)を共催した。

- 平成 30 年 11 月 6 日 10:30-12:00 「男女共同参画セミナー：多様化するジェンダー・アイデンティティと日本社会」(広島大学東広島キャンパスにて、講師：東洋大学社会学部石田由香理助教、男女共同参画推進室主催)を共催した。
- 平成 30 年 11 月 17 日 14:00-17:00 「地域でつくる精神保健——精神病院のない国イタリア、トリエステの現場から」(東千田未来創生センターにて、講師：トリエステ精神保健局 Mario Colucci (マリオ・コルッチ) 精神科医)をインキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」と共催した。
- 平成 31 年 2 月 11 日 13:00-17:40「広島大学 SDGs シンポジウム—Innovation, Collaboration, and Transformation for Peace and Sustainability」(広島大学霞キャンパスにて、広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点主催)に協力し、協力教員の坂田桐子教授が、株式会社イズミ人事部の串田亮氏とともに登壇し「広島大学の特色ある取り組みと連携の可能性」について講演した。
- 平成 31 年 3 月 1 日 「広島大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」事業の一環として「女性活躍セミナー」(ホテルグランヴィア広島にて、広島大学主催)に協力し、セミナーの司会進行役を大池真知子教授が務め、協力教員の森永康子教授が「『無意識のバイアス』とジェンダー：『女性ならば...』の思い込みが女性の意欲を減じるとき」の講演を行った。
- 平成 31 年 3 月 14 日「性の多様性と包摂についての研究——問題とされているのは何なのか」(広島大学東広島キャンパスにて、講師：広島修道大学社会学部河口和也教授、大阪市立大学都市文化研究センター安達菜穂子研究員、ともに本センター連携研究者)をインキュベーション拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点」と共催した。

(2) 企業・自治体・教育機関での研修や講演

- 平成 30 年 6 月 12 日 広島国際大学にて、協力教員の坂田桐子教授が「大学でなぜ『男女共同参画』が必要なのか？」の講演を行った。
- 平成 30 年 6 月 17 日 東京大学柏キャンパスにて、「RISTEX 科学技術イノベーション政策のための科学」として、協力教員の森永康子教授が「女性の数学に対する態度とステレオタイプ」の講演を行った。(.)
- 平成 30 年 7 月 28 日 エソール広島にて、エソールひろしま大学基礎講座として、協力教員の森永康子教授が「格差社会を支える心のしくみ——なぜ男女格差はなくなる？」の講演を行った。
- 平成 30 年 12 月 4 日 広島女学院にて、広島女学院大学人権週間人権セミナーとして、協力教員の森永康子教授が「格差社会を支える心のしくみ——なぜ差別はなくなる？」の講演を行った。
- 平成 30 年 12 月 12 日 広島県世羅郡世羅町役場 (広島県世羅郡)にて、世羅町議会議員人権研修として、大池真知子教授が「女性の人権と男女共同参画」の講演を行った。
- 平成 31 年 1 月 25 日 広島県竹原市役所にて、広島県竹原市役所人権講演会として、連携研究者の河口和也教授が「性の多様性の理解に向けて」の講演を行った。
- 平成 31 年 2 月 26 日 渚中学・高等学校にて、渚中学・高等学校教職員研修会として、連携研究者の河口和也教授が「性の多様性 LGBT 生徒の理解に向けて」の講演を行った。
- 平成 31 年 3 月 16 日 かなべ市民文化交流センターにて、神辺生涯学習センター人権・社会

教育活動事業人権問題講演会として、連携研究者の河口和也教授が「多様性が尊重される地域社会へー遠い存在ではない LGBT」の講演を行った。

- 平成 31 年 3 月 23 日 名古屋丸善本店にて、名古屋丸善本店丸善ゼミナール「大学と L G B T」として、連携研究者の河口和也教授が「LGBT について知ること世界の見方はどう変わるのか」の講演を行った。

(3) 広島大学でのダイバーシティ推進のための取り組み

- 平成 31 年 1 月に発足した「セクシュアリティの多様性検討ワーキング」の座長を大池真知子教授が務め、アクセシビリティセンター、保健管理センター、ハラスメント相談室と協力して、性の多様性を尊重する環境を学内で整備するための検討を進めた。
- 平成 31 年 3 月 上記「セクシュアリティの多様性検討ワーキング」の活動の一環として、広島大学の学生と教職員を対象に、LGBT に対する態度についての調査を実施する計画を立案した。
- 平成 31 年 3 月 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」事業の一環として、広島大学の教員を対象に、研究環境や研究意欲についての調査を実施した。
- 平成 31 年 3 月 29 日に発足した、ジェンダー問題についての学生サークル「Planet Inclusion」（代表：総合科学部大森楓／Elahe Nassr、責任者：大池真知子教授）と、今後実施する学習活動やイベントについて検討した。

3. 平成 30 年度研究業績一覧

論文・著書

- 安藤香織・冠地情・原佐知子・安達菜穂子 (2019). 視点の移動を体験するコミュニケーション・ゲームの開発：発達障がいを持つ成人を対象に科学技術融合振興財団助成金報告書, 1-78.
- 森永康子・船田紗緒里・小川 葵・野中りょう・矢吹圭・董星宇 (2019). ポジティブ・ステレオタイプのもたらすネガティブな効果—Siy & Cheryan (2016) の追試—, 広島大学心理学研究, 18, 189-198.
- 大池真知子 (2019). ヴェロニク・タジョの絵本『アヤンダ』が表象するアフリカの災厄と回復—アフリカを扱う日本語の絵本のなかに位置づけて考える, 黒人研究, 88, 96-110.
- 酒井千絵 (2018) 移動する人々のライフストーリーとグローバル化する「アジア」の変容：香港・上海就職ブームという対象から, 関西大学『社会学部紀要』, 50, 1, 25-47.
- 坂田桐子 (2019). 第 1 章 女性の昇進を阻む心理的・社会的要因. 大沢真知子 (編著) 『なぜ女性管理職は少ないのか』 青弓社, pp.25-64.

学会発表

- Adachi, N., & Ikegami, T. (2019.2.8) Will family norms justify the expression of homophobia? The 20th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology (Portland, USA)
- 董星宇・森永康子 (2018.10.13). 男らしさの過剰補償についての研究. 中国四国心理学会第 74 回大会(広島市市民文化センター, 広島県東広島市)
- 原圭史郎・北梶陽子・杉野弘明・吉岡律司・武田裕之・田口聡志・肥前洋一・西條辰義. (2018.9.8). Roles and Functions of Imaginary Future Generations in Future Design: Evidence from Participatory Deliberation on Public Facility Management. 環境経済政策学会 2018 年大会. (上智大学, 東京都千代田区)
- Kitakaji, Y., Ohnuma, S., & Hizen, Y. (2018.6.27), The effects of communication among selected members on the behaviors of non-selected members in a social dilemma situation, 29th International Congress of Applied Psychology. (Montreal, Canada)
- 北梶陽子. (2018.11.18). 大規模集団社会的ジレンマにおける集団規模の効果. 日本シミュレーション&ゲーミング学会全国大会報告集 2018 年秋号, 16-21. (熊本学園大学, 熊本市).
- 北梶陽子. (2018.12.22). 二種の視点取得による向社会行動への影響. 第 22 回実験社会科学カンファレンス, (名古屋市立大学, 名古屋市).
- 北梶陽子・稲葉美里. (2018.8.28). 入れ子型の社会的ジレンマにおける協力行動の推移と罰の効果, 日本社会心理学会第 59 回大会, (追手門学院大学, 大阪府茨木市) [poster]
- 清末有紀・森永康子 (2018.10.13). 男性上司から優秀な女性部下への評価—地位脅威と男らしさ脅威—. 中国四国心理学会第 74 回大会学部生研究発表会(東広島市市民文化センター, 広島県東広島市)
- 森永康子・福留広大 (2018.10.13). 好意的性差別態度は人々を幸せにするか. 中国四国心理学会第 74 回大会 (東広島市市民文化センター, 広島県東広島市)
- 森永康子・福留広大・坂田桐子・北梶陽子・大池真知子 (2018.8.28). 女性に対する差別的態度を検討する—クラスター分析による分類—, 日本社会心理学会第 59 回大会 (追手門学院大学, 大阪府茨木市)

- 森永康子・坂田桐子・北梶陽子・大池真知子・福留広大 (2018年9月). 好意的性差別尺度日本語短縮版の作成—働く女性に対する好意的差別を考える—. 日本心理学会第82回大会 (仙台国際センター, 宮城県仙台市)
- 森永康子 (2019.3.30) 社会的視点から見た性差. 第3回パーソナリティ心理学コロキウム (立正大学, 東京都品川区)
- 森永康子 (2018.9.18). 研究委員会企画シンポジウム「達成動機とジェンダー」企画・話題提供 「女性の数学意欲とステレオタイプ」. 日本教育心理学会第60回総会 (慶応義塾大学日吉キャンパス, 神奈川県横浜市)
- 野中りょう・小川 葵・矢吹 圭・船田紗織里・森永康子 (2018.10.13). ポジティブなステレオタイプのネガティブな響き—Siy & Cheryan (2016) の追試—. 中国四国心理学会第74回大会学部生研究発表会(東広島市市民文化センター, 広島県東広島市)
- Sakai, C. (2019.1.31) Family as a buffer between multicultural individuals and single citizenship nations: Cross-border marriages between Japan and China, MARRIAGE MIGRATION, FAMILY AND CITIZENSHIP IN ASIA (National University of Singapore, Singapore)
- Sakai, C. (2018.7.19) Japanese Expatriates in China Since the 1990s: Gender, Nationalism, and the Changing Status as a Migrant, the XIX ISA World Congress of Sociology. (Toronto, Canada)
- 坂田桐子 (2018.9.27). 日本心理学会第82回大会シンポジウム『セックス／ジェンダー概念の再吟味—豊かなジェンダー研究に向けて』にて話題提供. 発表題目:セックス／ジェンダー概念再考—組織研究の観点から—(仙台国際センター, 宮城県仙台市)
- 坂田桐子・唐晨 (2018). 好意的性差別は女性の昇進意欲を阻害するか—状態自尊心の役割に注目して—. 日本社会心理学会第59回大会 (追手門学院大学, 大阪府茨木市) [poster]
- 覃宝妮・森永康子 (2018.10.13). 女性から女性サブグループへの態度. 中国四国心理学会第74回大会(東広島市市民文化センター, 広島県東広島市)
- 覃宝妮・森永康子 (2018.9.25). 女性から女性サブタイプへのネガティブな態度—ジェンダー・アイデンティティと性役割観からの検討—, 日本心理学会第82回大会 (仙台国際センター, 宮城県仙台市)
- 漆谷紗耶・森永康子 (2019.3.19). 第三者女性におけるレイプ神話受容と被害者非難. 日本発達心理学会第30回大会 (早稲田大学, 東京都新宿区)
- Urushidani, S., & Morinaga, Y. (2018.11.17). Why are sex crime victims blamed?: A survey on the rape myths among Japanese university students. 52nd Annual Convention of Association of Behavioral and Cognitive Therapies (Washington Marriott Wardman Park, United States)
- 漆谷紗耶・森永康子 (2018.8.28). 男性による性犯罪被害女性への非難についての検討—不安定な男性性とレイプ神話—. 日本社会心理学会第59回大会 (追手門学院大学, 大阪府茨木市)

研究パートナー組織募集

当センターでは、女性の活躍促進や男女共同参画、多文化共生等々の取組を阻害する要因を解明するとともに、取組の効果を向上させる方策を考案し、ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進のための実証研究に取り組んでいます。このような研究を進めるためには、企業をはじめとする民間団体や地方公共団体等の方々の協力が欠かせません。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進に関心をお持ちで、共に研究を進めていただける組織の方々を募集しております。

広島大学 ダイバーシティ研究センター
Hiroshima University
Research Center for Diversity and Inclusion

739-8524

広島県東広島市鏡山1-1-1

Tel:+81 82 424 4559

email: diversity-center@hiroshima-u.ac.jp

Web: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/diversity>